

サムエル記第二

第一サムエルのビデオでは3人の主な登場人物を紹介しましたサムエルサウルそしてダビデです
またこの書の文学的構造を紹介しました
はじめにサムエルの登場その後 にサウル王の成功と衰退
それとは対照的なダビデの繁栄 です
第二サムエルでは王としてのダビデ を2つの側面から描いています成功
と祝福の時期とその後に犯した 大きな過ちと
その悲しい結末です この書はダビデがした良いこと
と悪いことを振り返り 彼の血筋から偉大な王が現れる
という希望でしめくられています

第二サムエルはサウルの死の直後
から始まります ダビデは彼を殺そうとしたサウル
のために嘆き長い詩を作り 人々を驚かせます敵の死さえも
嘆き悲しむダビデの姿に 彼の謙虚さと慈悲深さが現れて
います
その後ダビデは成功と祝福の時期
を迎えます イスラエルの全部族がダビデの
もとに集い 自分たちを治めてほしいと願
いました そこでダビデはまずエルサレム
の街を勝ち取り イスラエルの首都としてシオン
と名付けましたここから ダビデは数々の戦で勝利を収め
イスラエルの領地を広げたのです
こうしてエルサレムはイスラエル
の政治の中心地になりましたが ダビデはそこを宗教の中心地
にしたいと思いました
彼は契約の箱をエルサレムへ移
し第二サムエル7章では イスラエルにはちゃんとした家
があるのだから 神の箱のためにもそれ相応の家
を建てるべきだと考えます そこで
ダビデはイスラエルの神のために 神殿を建てたいと祈りました
しかし神はいいえ私があなたのために 一つの家
王朝を建てると答えたのです この第二サムエル7章は聖書全体
のストーリーを理解するうえで 重要な章ですなぜなら神はここで

ダビデの血筋からこの地上に神殿 を建てる王をおこし
永遠の王国を確立すると約束した からです
この神からダビデへのメシアの約束 は詩篇や預言書の中で
更に詳しく述べられています この王こそ神からアブラハムへの
約束の実現であり 未来のメシアの王国が国々に祝福を
もたらず手段なのです

しかしこの神の祝福の約束が告げられた 直後に事態は突如悪化します
ダビデは致命的な失敗をします が
命を落としたのは彼自身ではなく
彼の優秀な兵士の一人であるウ リヤでした
ダビデは王宮の屋上から ウリヤの妻のバテシェバが体を
洗っているところを見かけ 彼女を王宮へ呼び一緒に寝て妊娠
させてしまいました そしてこの不祥事を揉み消すために
ウリヤを暗殺し 彼女と結婚したのですなんとお
ぞましい事件でしょう 預言者ナタンがこの悪事について
ダビデを責めると ダビデはすぐに自分のやったことを
受け止め 心を砕き悔い改めました
ダビデは神に赦しを求め神は彼 を赦しました

しかし神はダビデが犯した罪の 結果を帳消しにはしませんでした
この大きな過ちの結果としてダビデ の家庭も
王国も崩壊していきます この悲劇はサウルの失墜を思い
起こさせます ダビデの息子たちは父と同じ過
ちを犯し その罪は更にエスカレートして
いきました アムノンが妹のタマルを強姦し
彼らの兄弟であるアブサロムが それを知り
アムノンを暗殺するのです そしてアブサロムは父を王座から
引き下ろすための計画を企み 大規模な反乱を起こします
ダビデは二回目となる荒野での 逃亡生活に追いやられますが
今回は潔白の身ではありません やがてアブサロムは殺されて
反乱は終わります
ダビデは息子 の死を悔み
またしても自分を殺そうとした 者のために嘆くことになるのです
晩年のダビデは王座に戻ります が自分の罪の結果に傷つき
打ち砕かれた男として描かれて います

この書の最後のセクションのストーリー は時系列ではなく非常にこった作りになっています 最初と最後の2つのストーリーはダビデ王の初期の話で サウルとダビデの失態を比べています 二人とも誤った決断をして結果的に人を傷つけました その内側に挟まれている二つのストーリーは ペリシテ人と戦ったダビデと勇士たちについてです 興味深いのはどちらのストーリーでも 戦いにおけるダビデの弱さが描かれていることです

1章から9章で立て続けに勝利を収めていたダビデと対照的に ここでのダビデは人の助けにすぎない弱い人として描かれています そして中心にある2つの詩は回想シーンのような 役割を果たしています ダビデは自分の人生を振り返り 神が恵み深く危機から救い出してくださった ことを思い起こし これこそが神がダビデとその子孫 家族と結んだ契約を守った証しであると語っています

二つの詩の内容は過去を振り返りつつ 神が約束した永遠の王国を建てる王の希望なのです さてこれらの詩また神の約束はこの書の冒頭のハンナの祈りと 繋がっています この書の始まり中心そして結び の箇所が同じテーマを取り上げ この書をまとめるのです サウルやダビデが悪に走ってしまっても神は目的を成し遂げます 神はダビデとサウルの高ぶりに敵対しましたが ダビデがへりくだった時には彼を引き上げました この書が語る希望はダビデの生涯より 遥か未来へとつながっています それはやがて全世界を祝福する メシアなる王を指し示しているのです これがサムエル記です

500 字要約

第二サムエルはサムエル記の続編で、サウル、ダビデ、およびイスラエルの歴史を探ります。サウルの死後、ダビデは王として成功し、祝福を受けるが、大きな過ちを犯しました。ダビデはエルサレムを首都にし、神殿を建てることを望みましたが、神は異なる計画を明らかにし、メシアの出現を予言しました。しかし、ダビデの罪により、彼の家庭と王国は崩壊し、家族の不和と反乱が起こりました。ダビデは神に悔い改め、赦しを求めましたが、罪の影響は避けられませんでした。結局、サムエル記はダビデの生涯を通じて神の計画と希望を追求し、メシアの出現への期待を描いています。